

## 2. 変更事項の内容

(新旧対照表)

変更後	変更前
2. 地域再生計画の作成主体の名称	
新潟県、 <u>村上市</u>	新潟県、 <u>山北町</u>
3. 地域再生計画の区域	
<u>村上市の区域の一部（旧山北町）</u>	<u>山北町の全域</u>
4. 地域再生計画の目標	
<p><u>当地域</u>は新潟県の最北端に位置し、周囲は山形県鶴岡市、新潟県旧朝日村、旧<u>村上市</u>、及び日本海に接する人口約7千3百人の<u>地域</u>である。</p> <p>総面積283.91km<sup>2</sup>のうち264.98km<sup>2</sup>、93.3%が森林で占められ、森林の所有形態は、国有林12.0%民有林88.0%で、民有林に占める人工林の割合は43%と新潟県平均の25%を大きく上回り、古くから林業地として栄えた<u>地域</u>である。</p> <p>近年も林業構造改善事業等に積極的に取り組み、生産から加工流通に至る一貫体制づくりを進め、県内唯一の国産ブランド材産地としての地位を築いて来た。</p> <p>しかしながら、近年需要の減少や木材価格の低迷から林業生産活動の停滞、荒廃森林の増加等極めて憂慮すべき現状にある。</p> <p>一方、海岸地域は名勝天然記念物「<u>笹川流れ</u>」として知られ、夏季の海水浴シーズンを中心に観光客が大勢訪れる所でもあり、<u>笹川流れ</u>の海水を使った塩・藻塩は<u>当地域</u>の特産品のひとつになっている。</p> <p>また、<u>地域内</u>の海岸線延長約26kmには県営漁港1港の他、<u>市営</u>の漁港が4港あり、新潟県の中でも新潟地区、佐渡地区に次ぐ漁獲高を上げている。新鮮な魚介類を求めて県外から訪れる客も多い。</p> <p>この外にも、林地を活用した特用林産物（なめこ、しいたけ、木炭）や、放し飼い鶏卵、山菜、笹団子・笹巻き等、自然資源</p>	<p><u>山北町</u>は新潟県の最北端に位置し、周囲は山形県鶴岡市、新潟県朝日村、<u>村上市</u>、及び日本海に接する人口約7千3百人の<u>町</u>である。</p> <p>総面積283.91km<sup>2</sup>のうち264.98km<sup>2</sup>、93.3%が森林で占められ、森林の所有形態は、国有林12.0%民有林88.0%で、民有林に占める人工林の割合は43%と新潟県平均の25%を大きく上回り、古くから林業地として栄えた<u>町</u>である。</p> <p>近年も林業構造改善事業等に積極的に取り組み、生産から加工流通に至る一貫体制づくりを進め、県内唯一の国産ブランド材産地としての地位を築いて来た。</p> <p>しかしながら、近年需要の減少や木材価格の低迷から林業生産活動の停滞、荒廃森林の増加等極めて憂慮すべき現状にある。</p> <p>一方、海岸地域は名勝天然記念物「<u>笹川流れ</u>」として知られ、夏季の海水浴シーズンを中心に観光客が大勢訪れる所でもあり、<u>笹川流れ</u>の海水を使った塩・藻塩は<u>当町</u>の特産品のひとつになっている。</p> <p>また、<u>町内</u>の海岸線延長約26kmには県営漁港1港の他、<u>町営</u>の漁港が4港あり、新潟県の中でも新潟地区、佐渡地区に次ぐ漁獲高を上げている。新鮮な魚介類を求めて県外から訪れる客も多い。</p> <p>この外にも、林地を活用した特用林産物（なめこ、しいたけ、木炭）や、放し飼い鶏卵、山菜、笹団子・笹巻き等、自然資源</p>

<p>を利用した地域の特産品が数多い。</p> <p>また、山間部の集落ではシナ織りの伝統技術や、焼畑での赤カブ作り、熊祭り等の行事が自然と共生した形で今なお残り、貴重な文化として地域住民に継承されている。</p> <p>この様に、<u>当地域</u>には自然の恵みにより育まれた貴重な資源が、広範囲かつ豊富に存在する。これらの資源は、その地で体験し味わうことで、その物の本当の良さが感じられるものである。</p> <p>このため、下記の目標に向け地域間を結ぶ<u>市道</u>及び林道の整備を行い、効率的な森林管理、及び林業生産性の向上と<u>地域内</u>の人や物（水産物、農産物、林産物等）の流通を活性化させるとともに、各地域における自然を活かした魅力ある文化を体験し味わえるネットワークづくりを進め、地域の再生を実現したい。</p> <p>（目標1）地域資源を活かした観光施設利用者の増加と特産品の生産、販売高の向上 <u>市道</u>、林道整備による自然・文化体験ネットワーク化（観光施設の利用者5パーセント増、及び特産品生産・売上高向上）</p> <p>（略）</p>	<p>を利用した地域の特産品が数多い。</p> <p>また、山間部の集落ではシナ織りの伝統技術や、焼畑での赤カブ作り、熊祭り等の行事が自然と共生した形で今なお残り、貴重な文化として地域住民に継承されている。</p> <p>この様に、<u>当町</u>には自然の恵みにより育まれた貴重な資源が、広範囲かつ豊富に存在する。これらの資源は、その地で体験し味わうことで、その物の本当の良さが感じられるものである。</p> <p>このため、下記の目標に向け地域間を結ぶ<u>町道</u>及び林道の整備を行い、効率的な森林管理、及び林業生産性の向上と<u>町内各地域間</u>の人や物（水産物、農産物、林産物等）の流通を活性化させるとともに、各地域における自然を活かした魅力ある文化を体験し味わえるネットワークづくりを進め、地域の再生を実現したい。</p> <p>（目標1）地域資源を活かした観光施設利用者の増加と特産品の生産、販売高の向上 <u>町道</u>、林道整備による自然・文化体験ネットワーク化（観光施設の利用者5パーセント増、及び特産品生産・売上高向上）</p> <p>（略）</p>
<p>5. 目標を達成するために行う事業</p>	
<p>5-1 全体概要</p> <p><u>当地域の地域づくり</u>の基本目標である「定住と生きがいのある<u>地域づくり</u>」を実現するうえで、「豊かな恵みを資源とする、個性・交流・協働の<u>地域づくり</u>」を施策推進の為のひとつの視点としており、地域再生の要となるものでもある。</p> <p>これらの視点から、「美しい自然」「歴史と風土に根ざした文化・生業」「あたたかい心・人」を資源として、交流、協働の取り組みを進め、地域再生を図るため以下の事業を実施する。</p> <p>まず、<u>市道勝木上大鳥線</u>の改良である。この路線は二級河川勝木川左岸に点在する8集落を結ぶ二級幹線<u>市道</u>であるが、板屋沢、北赤谷、北田中集落間は交通不能区間となっている。特に北赤谷集落へのアクセスは1箇所、<u>市道橋</u>1本で集落の生活が支えられている状況にあり、集落住民は災害</p>	<p>5-1 全体概要</p> <p><u>当町の町づくり</u>の基本目標である「定住と生きがいのある<u>町づくり</u>」を実現するうえで、「豊かな恵みを資源とする、個性・交流・協働の<u>町づくり</u>」を施策推進の為のひとつの視点としており、地域再生の要となるものでもある。</p> <p>これらの視点から、「美しい自然」「歴史と風土に根ざした文化・生業」「あたたかい心・人」を資源として、交流、協働の取り組みを進め、地域再生を図るため以下の事業を実施する。</p> <p>まず、<u>町道勝木上大鳥線</u>の改良である。この路線は二級河川勝木川左岸に点在する8集落を結ぶ二級幹線<u>町道</u>であるが、板屋沢、北赤谷、北田中集落間は交通不能区間となっている。特に北赤谷集落へのアクセスは1箇所、<u>町道橋</u>1本で集落の生活が支えられている状況にあり、集落住民は災害</p>

時の孤立を心配している。

また、当該市道終点部集落（上大鳥集落）から大谷沢集落に繋がる森林基幹道三条山線の開設は、森林の管理保全の促進と共に資源活用の利便性が期待されている。

次に、市道板屋沢2号線の改良（勝木川橋架替）であるが、この周辺には3社の工場と2つの集落があり、年々工場関係施設が拡大する中で、現市道橋の全幅員4.0m、通行荷重制限14tは大きな障害となっている。

また、この集落から接続する森林管理道芦谷板屋沢線の開設は、森林保全作業等を促進させるものとして早期開設が望まれている。

最後に、市道山熊田1号線の改良と森林基幹道大毎山熊田線の開設である。山熊田集落へのアクセス道路である県道山熊田府屋停車場線の終点部から、森林基幹道大毎山熊田線起点までの間が市道山熊田1号線であるが、この路線は幅員が3.0mと狭く、同路線終点部にある長期滞在施設等周辺利用者や、森林基幹道への通行に支障を来している。

また、森林基幹道大毎山熊田線は、森林保全作業の促進のために早期開設が望まれている。

これら市道路線の改良、及び林道開設を総合的に実施することにより、単なる孤立集落の解消や森林保全作業の向上のみならず、他のグリーンツーリズムや、観光交流施策と連携したエコツーリズムの一層の推進、交流人口の増大を図ることが出来るとともに、林道が開設されることにより適正な間伐、枝打ち作業の実施等、森林管理の効率化が図られ、森林の景観保全をはじめとした多面的機能を最大限に発揮することができ、豊かな自然と共生する形での地域資源を活かしたまちづくりを推進し、自然景観を活かした交流人口の拡大等、一体的な地域再生を図ることが出来るものと考えられる。

また、集落間を連結する幹線道路である市道勝木上大鳥線を、地域のネットワークを構成する林道と共に整備することにより、将来的には観光施設へのアクセス時間を短縮させることが出来、今後に繋がる重要な資本整備となるものである。

時の孤立を心配している。

また、当該町道終点部集落（上大鳥集落）から大谷沢集落に繋がる森林基幹道三条山線の開設は、森林の管理保全の促進と共に資源活用の利便性が期待されている。

次に、町道板屋沢2号線（勝木川橋架替）改良であるが、この周辺には3社の工場と2つの集落があり、年々工場関係施設が拡大する中で、現町道橋の全幅員4.0m、通行荷重制限14tは大きな障害となっている。

また、この集落から接続する森林管理道芦谷板屋沢線の開設は、森林保全作業等を促進させるものとして早期開設が望まれている。

最後に、町道山熊田1号線の改良と森林基幹道大毎山熊田線の開設である。山熊田集落へのアクセス道路である県道山熊田府屋停車場線の終点部から、森林基幹道大毎山熊田線起点までの間が町道山熊田1号線であるが、この路線は幅員が3.0mと狭く、同路線終点部にある長期滞在施設等周辺利用者や、森林基幹道への通行に支障を来している。

また、森林基幹道大毎山熊田線は、森林保全作業の促進のために早期開設が望まれている。

これら町道路線の改良、及び林道開設を総合的に実施することにより、単なる孤立集落の解消や森林保全作業の向上のみならず、他のグリーンツーリズムや、観光交流施策と連携したエコツーリズムの一層の推進、交流人口の増大を図ることが出来るとともに、林道が開設されることにより適正な間伐、枝打ち作業の実施等、森林管理の効率化が図られ、森林の景観保全をはじめとした多面的機能を最大限に発揮することができ、豊かな自然と共生する形での地域資源を活かしたまちづくりを推進し、自然景観を活かした交流人口の拡大等、一体的な地域再生を図ることが出来るものと考えられる。

また、集落間を連結する幹線道路である町道勝木上大鳥線を、地域のネットワークを構成する林道と共に整備することにより、将来的には観光施設へのアクセス時間を短縮させることが出来、今後に繋がる重要な資本整備となるものである。

<p>5-2 <u>法第5章</u>の特別の措置を適用して行う事業</p> <p>道整備交付金を活用する事業</p> <p>対象となる事業は、以下のとおり事業開始に係る手続き等を完了している。</p> <p>なお、整備箇所等については、別添の整備箇所を示した図面による。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>市道</u>：道路法に規定する<u>市道</u>に昭和60年3月31日までに認定済。</li> </ul> <p>(略)</p> <p>[施設の種類 (事業区域)、事業主体]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>市道</u> (<u>村上市の旧山北町区域</u>)、<u>村上市</u></li> <li>・<u>林道</u> (<u>村上市の旧山北町区域</u>)、<u>新潟県</u></li> </ul> <p>[事業期間]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>市道</u> (平成19～21年度)</li> </ul> <p>(略)</p> <p>[整備量及び事業費]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>市道</u> 1. 11 Km、<u>林道</u> 1. 90 km</li> <li>・総事業費</li> </ul> <p>(内訳) <u>市道</u> 490,000千円</p> <p>(略)</p>	<p>5-2 <u>法第4章</u>の特別の措置を適用して行う事業</p> <p>道整備交付金を活用する事業</p> <p>対象となる事業は、以下のとおり事業開始に係る手続き等を完了している。</p> <p>なお、整備箇所等については、別添の整備箇所を示した図面による。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>町道</u>：道路法に規定する<u>町道</u>に昭和60年3月31日までに認定済。</li> </ul> <p>(略)</p> <p>[施設の種類 (事業区域)、事業主体]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>町道</u> (<u>山北町</u>) <u>山北町</u></li> <li>・<u>林道</u> (<u>山北町</u>) <u>新潟県</u></li> </ul> <p>[事業期間]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>町道</u> (平成19～21年度)</li> </ul> <p>(略)</p> <p>[整備量及び事業費]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>町道</u> 1. 11 Km、<u>林道</u> 1. 90 km</li> <li>・総事業費</li> </ul> <p>(内訳) <u>町道</u> 490,000千円</p> <p>(略)</p>
<p>7. 目標達成状況に係る評価に関する事項</p>	
<p>計画終了後に、4に示す数値目標に照らし状況を調査する。また事業の見直しを図るため<u>村上市</u>で評価・検討を行う。</p>	<p>計画終了後に、4に示す数値目標に照らし状況を調査する。また事業の見直しを図るため<u>山北町</u>で評価・検討を行う。</p>